

「第3回農業用水路を活用した小水力発電の今後の在り方に関する技術検討会」
議事概要

日時：平成30年2月27日（火）14：00～15：30

場所：水土里ネットくまもと 3階研修室

出席者：田中委員長、宮原副委員長、小柳委員、濱委員

主な審議結果

- ・ 提言については、「流量」と「管理体制」の観点も記載すること
- ・ 上記を含めた今回検討会での意見を踏まえた提言（案）を次回検討会までに事務局で取りまとめること

議事概要

(1) これまでの検討項目に関する新たな意見等について

(小柳委員)

- ・ 今後の参考として、他県での除塵機追加設置事例について、設置費用等を確認すべき
- ・ 行政主導で整備した場合、整備後の管理も行政に頼りがち。計画段階から地元主導で進めていけば、管理意識の向上や管理の適正化につながるのではないか。

(宮原副委員長)

- ・ 売電を続けていくことが重要であり、採算性をしっかり押さえておく必要がある。
- ・ 幸野溝発電所については、今年度、修繕を実施（費用：25万円）。故障時の費用やメーカーの対応等も、導入を検討するうえでの重要なポイント。

(田中委員長)

- ・ 火力発電所なども修繕やメンテナンスの費用等を含めた採算性の検討を行っている。
- ・ 管理のしやすさ（ゴミの除去や処理のしやすさ等）も重要なポイント。

(濱委員)

- ・ 整備を行うかの判断にあたっては、採算性のみならず、環境学習や地域活動の場等としての役割も加味すべき

(2) 提言（案）について

(濱委員)

- ・ 発電における重要要素である「流量」について記載できないか。
- ・ 採算性だけでなく、環境学習等による効果も評価すべき

(小柳委員)

- ・ 「ゴミ対策」だけでなく、「流量」や「管理体制」の観点も記載すべき
- ・ 「採算性」という表現を使用した方がよい

(宮原委員)

- ・ まず、採算性の確保が重要であり、そのためには適正な施設管理が重要。

(田中委員長)

- ・ 全国の施設の状況に関する情報の収集・共有は重要。メンテナンス費用の想定にも活用できる。

(以上)